

住民参加の「防災マップ」づくりによる防災意識の向上(鬼北町)

【取組概要】

行政による防災資機材整備・災害備蓄など防災・減災対策には限界がある。また、大規模災害発生時には、行政機能の著しい低下も懸念されており、自主防災組織等を中心とした「自助・共助」による防災・減災への取組が重要である。

鬼北町においては、住民参加による「地域防災マップづくり」の取り組みにより、行政による、防災・減災対策を住民とともに考えることで、住民自らの防災・減災意識の高揚を促進させる。

人口 11,025人

担当部署 総務課 危機管理係
事業実施期間 27年4月~28年3月
取組事例のURL

【取組のポイント(特徴・先進性・特色など)】 【今後の構想や、他団体との連携の可能性】

地域自主防災会や防災士を中心に、自らの地域の点検を行い、地域資源の掘り起し、長所・短所を見直す機会とする。

このことにより、地域の防災課題(危険箇所・避難路)を把握し、対策事業(道路改良等)の必要性や優先順位を決定する材料となる。

「地域防災マップづくり」をきっかけとして、各地区ごとの「災害時行動マニュアル」、「要配慮者支援マニュアル」及び「避難所運営マニュアル」作成につなげていき、最終的には「地区防災計画」策定を行い、行政側の「災害対策事業計画」や「備蓄品等整備計画」等に反映する構想である。

